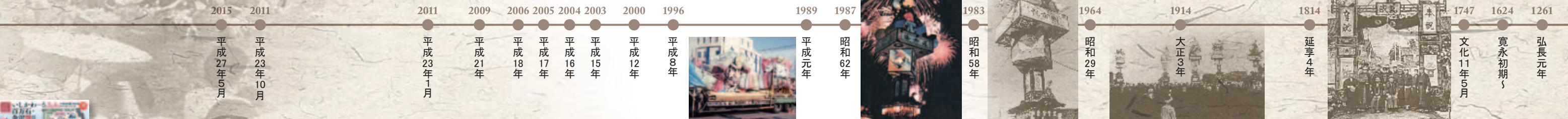
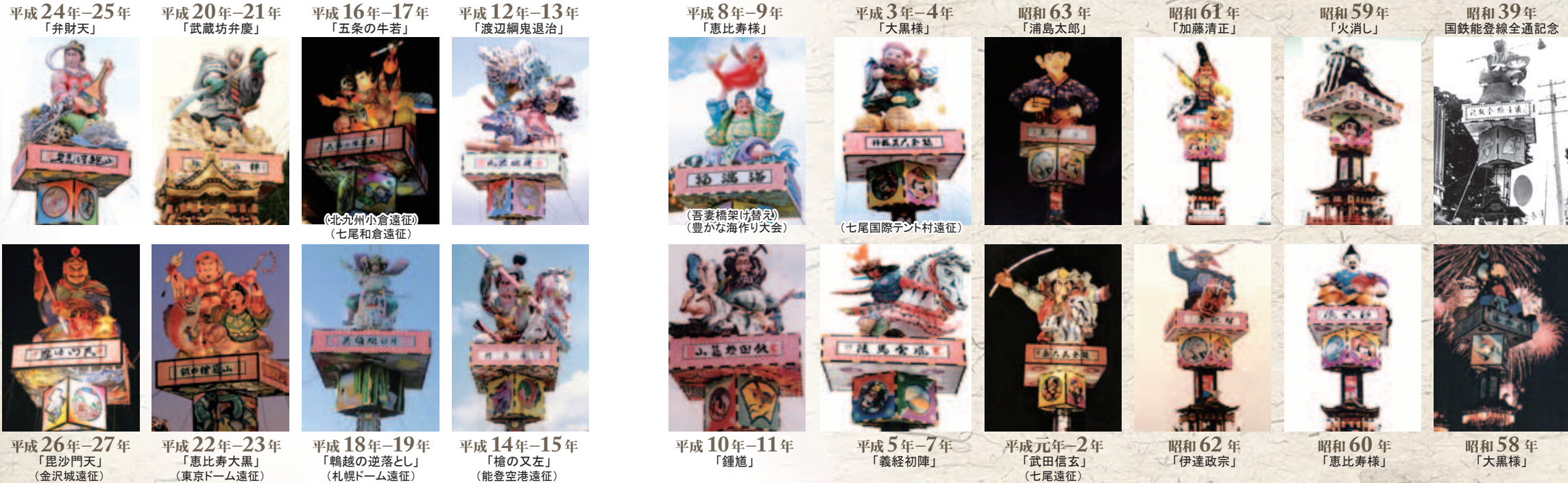


祭礼の歴史



奈良春日大社より御分霊を勧請し春日神社が建立
土用入り前後の最も暑い頃、神々に夕涼みをお出
まし願ひ、町民がお詣りしたのが祭礼の始まりと
されています。 神事としては「おすずみ祭り」

春日神社勧請式年550年祭が行われた際、神輿
渡御の際に大きな木柁（約2間・約5m）を作り紙
を貼り絵を描き、ローソクの灯りを入れて竹竿で
担ぎ御供をしたという記録が残されており、50年
ごとの大祭の際に催しがされていたことが伺えます。
（西勝寺にて当時の写真が保存されています。）
この時の大祭の折、文造・有助・新兵衛・九平・
儀右衛門・惣五郎・弥兵衛なる地元有志たちにより、
当時の山車をもつと素晴らしいものにしたいと試行
錯誤され、色々な文化を取り入れながら現在の燈
籠山の原型ができた郷土史にも記されています。

春日神社よりお涼みになれる神様は、飯田町の
海に近い場所へ青竹を立て、しめ縄を施した御飯
屋まで渡御されます。この時期の神社の文書にも
この御飯屋が作られたという記録が残されており、
その時の様子が『町民はデングク燈籠や高張提灯
等に灯りを入れ賑やかに供奉し神社への送迎をし
た』と記されています。

電線の架設により、当時約14m×15mあったといわ
れる燈籠山の巡行ができなくなりました。故・林
茂男氏によると、「始めの頃は燈籠山人形を山車
の前に飾るなどして、燈籠山人形を惜しみ利用し
ていましたが時代とともに次第に忘れられ、作ら
れなくなった」と話されています。

珠洲市市政記念の1枚に燈籠山の写真が残されて
おり、イベントや勧請式年等に活躍していたことが
伺えます。

更なる祭りの更なる発展を目指し、正式に飯田町
燈籠山祭り保存会を発足。同時期に飯田町祭礼
委員会会則を作成し、燈籠山が復活しました。

町内によっては燈籠山の人形作成に取組み、踊り
舞台に飾るなどの試みがされ始めます。

「七尾市市制50周年・JTB杜の賑わい」参加。
この時、それまで竹で製作されていた骨組みを針
金に変更。燈籠山人形製作において大きな転換期
を迎えます。骨組みが針金になったことで、車載
困難な大きい人形をパーツに分けることが可能に
そのうえさらに、人形の芸術性も向上する結果と
なりました。伝統文化に新しい技術が加わった燈
籠山人形はこれをきっかけに進化を果たします。

吾妻橋の架け替え新設に伴い、橋上に燈籠山人形
のモニメント設置

西暦2000年を記念し、燈籠山人形を2体乗せ
るという初めての試みにも成功いたしました。

「能登空港開港記念」イベント参加

「リバーウォーク北九州小倉」イベント参加

七尾市和倉イベント参加

「札幌商工会議所百周年・日本の祭り」イベント参加
（札幌ドーム遠征）

飯田町8町内の中の1基が燈籠山復活の試みに成
功したことにより、他の町内でも復活の兆しが見
えてきてきました。

「ふるさと祭り東京2011 日本のもつり・故郷の味」
イベント参加（東京ドーム遠征）

春日神社勧請 750年式年大祭の神賑行事として燈籠
山巡行

北陸新幹線開業記念「いしかわ百万石・金沢祭り」
イベント参加（金沢城二の丸広場）



布貼り作業



燈籠山人形の色塗り体験



大台横枠の色塗り体験

竹で作られた燈籠山人形

昔の燈籠山人形は、薄く細く裂いて組んだ竹に和紙が貼り
付け作られていました。中に入れる灯りにはロウソクが使
われていたため、火が人形にうつらないように見張りをつ
けていたとされています。竹ひごは一つ一つ火で炙りなが
ら曲げ、紐で結ぶという大変な労力をかけ作られていました。
一件一件の軒先には桜を模した竹飾りが飾られていたとさ
れています。

燈籠山人形を山車に取り付ける際は、山車を横に倒した状
態にし、台を入れながら少しづつ立てたと伝えられています。



昔の燈籠山人形の骨組み

近年の燈籠山人形づくりの様子

飯田町燈籠山祭り保存会は、燈籠山人形づくり教室を開催するなど、若年層の担い手
育成に力を入れております。また子供を対象に、大台横枠の色塗り作業を体験する場
を作っています。昔の燈籠山祭りの歴史を知るきっかけづくりの場となり、伝統保存に
もつながっています。各町曳山すべてを燈籠山に復元し巡行できればと…人形の製作を
試みる町内が増えてきました。地域の声として、飯田町燈籠山祭りの完全な復活を望む
声も高まりつつあります。